

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2018年6月30日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
検証テーマ：沖縄での慰霊式典、小野寺防衛大臣の山口県での講演 小池知事の小笠原諸島航空路検討、【特集】沖縄基地問題		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホリエモンロケット ・大分県、山口県、岐阜県、西日本各地で大雨 ・群馬県みなかみ町でパラグライダーが墜落、2人死亡 ・富山県交番襲撃事件、犠牲者2人の告別式 ・滋賀県米原市で竜巻の被害 ・沖縄での慰霊の式典 ・小野寺防衛大臣が山口県で講演 ・小池知事が小笠原諸島との航空路を検討 ・【特集】沖縄基地問題 ・【特集】はやぶさ2が小惑星「リュウグウ」に到着 ・潜伏キリシタン関連遺産が世界遺産に登録決定 ・スポーツ報道 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング：結論→非常に問題 番組の冒頭で金平キャスターが「サッカーワールドカップの対ポーランド戦の戦いぶりをめぐって論議が起きているようです。それを言うなら働き方改革・カジノ整備法案や党首討論など国会の質疑の在り方を見てくださいとフェアプレーとは程遠い姿を見せつけられているように思いますが、皆さんはどうお考えでしょうか。」と発言していた。この発言のシーンは18秒であった。 なお、国会での質疑のあり方について触れられたのは今回の番組を通じてこの箇所のみであった。国会質疑の様子についてコメントするのであれば、やはり番組の中でも一定の枠を設けて国会質疑の様子を取り上げるのが筋であろう。しかし、それを欠いているというのは、一方的に過ぎる報道姿勢であり、放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」に抵触する可能性が極めて高いといえる。番組の看板キャスターがこのような姿勢を見せることは、他のトピックについても報じ方やそもそも報道特集で取り上げるトピックの選定が政治的に偏っているのではという疑念を視聴者に生じさせる恐れがあることから非常にもったいないシーンであると言える。 ・沖縄での慰霊式典：結論→問題なし 今から59年前、沖縄の小学校にアメリカ軍機が墜落した事故で、亡くなった児童ら18人の慰霊祭が行われましたことが報じられたとともに当時の事故について「1959年6月30日、沖縄本島中部にある旧石川町の住宅街や小学校にアメリカ軍機墜落・炎上し児童ら18人が死亡したものです。」と伝えられた。このトピックに当てられた時間は205秒で、放送法第四条の見地からは特に問題は見られなかった。 		

・小野寺防衛大臣の山口県での講演：結論→問題なし

小野寺防衛大臣が地上配備型のミサイル迎撃システムイージス・アショアの配備候補地の山口県で講演し、北朝鮮の核ミサイル問題について何も前に進んでいないと強調し配備に向けた地元の理解を求めたことについて報じられ、講演での小野寺防衛大臣の「今北朝鮮は南北対話、米朝協議が進んでいる。もう弾道ミサイルの問題や核の問題が遠のいたじゃないかという風にいわれます。実際に北朝鮮は核ミサイルを廃棄しているか。核弾頭、これをちゃんと引き渡しているか。一つも引き渡していない。まだ何も前に進んでいない。」という発言が取り上げられていた。このトピックに当てられた時間は 59 秒で放送法第四条の見地からは特に問題は見られなかった。

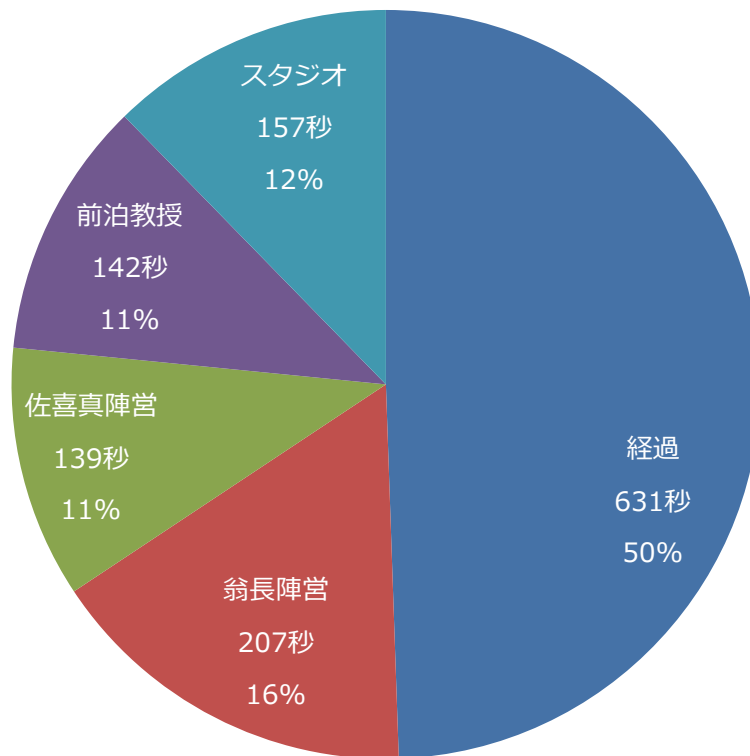
・小池都知事の小笠原諸島航空路検討：結論→問題なし

東京都の小池知事は小笠原諸島の空港建設について滑走路を 1000 メートル以下とするより環境に配慮した計画を検討することを明らかにしたことが報じられ、小池知事の「自然環境との調和に最大限配慮すること、1000 m以下の滑走路で運用可能な機材につきまして、財政負担も含めた、調査・分析を支持したところでございます。」という発言が取り上げられていた。

このトピックに当てられた時間は 80 秒で、放送法第四条の見地からは特に問題は見られなかった。

・【特集】沖縄基地問題：結論→やや不十分

沖縄基地問題と秋の県知事選挙について特集がなされた。基地問題や選挙についての経過、翁長陣営の動きや支持者の声、佐喜真陣営の動きや支持者の声、前泊教授へのインタビュー、スタジオでのやり取りの 5 つに大別された。このトピックに当てられた時間は 1276 秒で、それぞれのポイントへの時間配分及び比率は以下の通りだった。



経過では沖縄戦の慰霊式典が行われたことや、米朝首脳会談をはじめとする東アジア情勢の変化が伝えられ、東アジア情勢の変化については沖縄に駐留する米軍を束ねるニコルソン4軍調整官へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

ナレ「米朝関係の変化をどう見ているのか質問をぶつけてみた。」

金平「北東アジアの状況は劇的に変化しています。シンガポールの米朝会談後在沖米軍にどんな影響があると思いますか？」

ニコルソン氏「おっしゃる通り多くの変化が起きています。北朝鮮が国際社会に参加するのか今は状況を見守るしかない。日米など世界中が見守っています。これからの半年はとても興味深いです。北朝鮮については大きな希望を持っています。今後発展を続け平和が訪れると思っています。」

金平「とても楽観的なわけですね？」

ニコルソン氏「世界も楽観的です。どうなるのか見てみましょう。」

また、慰霊式典では浦添市の中学3年生「73年前、私の愛する島が死の島と化したあの日、小鳥のさえざりは恐怖の悲鳴と変わった。優しく響く三線は爆撃の轟に消えた。青く広がる大空は鉄の雨に見えなくなった。草においは死臭で濁り、光り輝いていた海の水面は戦艦で埋め尽くされた。家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。仕事があった。生き甲斐があった。日々の小さな幸せを喜んだ。手を取り合って生きてきた。私と同じ人間だった。それなのに壊されて、奪われた。私は手を強く握り、誓う。奪われた命に思いを馳せて、心から誓う。私が生きている限り、こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を絶対に許さないことを。もう二度と過去を未来としないこと。摩文仁の丘の風に吹かれ、私の命になっている。過去と現在、未来の共鳴。鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に、命よ響け。生き行く未来に。私は今を生きていく。」と自作の詩を朗読する場面が取り上げられていた。

翁長陣営については翁長知事が4月にすい臓がんの手術を受け、先月公務に復帰したことが伝えられると共に、慰霊式典での翁長雄志知事の「昨今東アジアをめぐる安全保障環境は大きく変化をしており、先日の米朝首脳会談においても、朝鮮半島の非核化への取り組みや、平和体制の構築について、共同声明が発表されるなど、緊張緩和に向けた動きが始まっています。平和を求める大きな流れにあっても、20年以上前に合意した辺野古への移設や、普天間飛行場問題の唯一の解決策といえるでしょうか。日米両政府は現行計画を見直すべきではないでしょうか。民意を顧みず、工事が進められている辺野古新基地建設については、沖縄の基地負担軽減に逆行しているばかりではなく、アジアの緊張緩和の流れにも逆行しているといわざるを得ず、まったく容認できるものではありません。」という発言が取り上げられた。また、翁長知事を支持する「オール沖縄共同会議」の中心人物である呉屋守将氏へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられた。

ナレ「新基地建設に反対する翁長知事は11月に行われる知事選挙に再選を目指して出馬するかどうか立場を明らかにしていない。すい臓がんの治療中で健康面で不安を抱えている。」

ナレ「沖縄でスーパーや建設会社などを経営する金栄グループの呉屋守将会長は辺野古の基地建設を阻止するために政党や財界労働組合などが結成したオール沖縄会議の共同代表を務めていた。今年2月の名護市長選挙で基地建設反対を掲げた現職の稲峰進氏が敗北したあと、共同代表を辞任したが今後も翁長知事を支えていくという。」

金平「11月には沖縄県知事選挙が控えていますけれども、この沖縄選挙というのはどういう戦いが繰り広げられていく戦いになると思いますか？」

呉屋氏「これはもう4年前と同じことですね、地域に不当に押し付けられた全体の苦勞・苦悩を正当化できるのかと違うでしょうといわゆる我々は現代も変わっていないと思っております、引き続き沖縄県民の多くの思いが翁長丈志さんという1流の集約されてきたわけです。ですからこの戦いの構図は今後とも変わらないだろうという風に思っておりますが、」

金平「そうすると次の沖縄県知事選挙での最大の争点は基地であると？」

呉屋「そうですね基地です。はい。これは間違いない。」

佐喜真陣営については、慰霊式典での安倍総理の「沖縄の方々には長きにわたり、米軍基地の集中による大きな負担を担っていただいております。この現状は何としても変えていかなければなりません。政府として基地負担を減らすため一つ一つ確実に結果を出していく決意であります。」という発言が取り上げられた他、佐喜真氏についてナレーションで「翁長氏に対抗する自民党などからは相手が翁長氏以外なら確実に勝るといった強気の声も出ている。現段階で自民党が最有力の候補の1人と位置付けているのが、普天間基地のある宜野湾市の佐喜真淳市長だ。」と紹介された上で、パーティと思しき場面で金平氏が佐喜真氏に以下に朱記したように問いかけるシーンが取り上げられた。

金平「新聞紙面をにぎわせて、なんか「意欲」とかねいろんなことが見出しに躍りまくってますけども。」

佐喜真氏「報道ですから。」

金平「ああ報道だけど」

また「佐喜真氏は出馬について言葉を濁すが、別のパーティーでは出馬に前向きともとれる発言をしていた。」とナレーションが伝えた直後には以下に朱記したパーティの様子を取り上げられた。

佐久間氏（音声）「悩みに悩んで悩みながら政治家は決断をするそういうものだと思っております。それ以上は申し上げません。」

聴衆「はっははは」

佐喜真氏「どうぞ知事選挙をみんなの力で我が陣営に取り戻そうじゃありませんか。」

ナレ「パーティーでは辺野古の埋め立てを承認した仲井真弘多前知事も佐喜眞氏を持ち上げた。」

仲井真(音声)「この佐喜眞淳氏が持っている天才的な能力。これをですなぜひ宜野湾市だけで困わないで、沖縄全体のために」

前泊教授のインタビューでは以下に朱記した2つのインタビューシーンが取り上げられた。

【シーン1】

ナレ「アメリカ軍普天間基地、嘉手納基地とこのホワイトビーチ地区は朝鮮戦争の国連軍基地としての機能も持つ。日本政府は北朝鮮に対する抑止力を沖縄の基地の存在意義の一つとして上げてきた。朝鮮戦争が終結すれば状況は変わるのか。沖縄国際大学の前泊博盛教授に聞いた。」

金平「朝鮮戦争の際の国連軍のそこの受け入れ基地の機能がある。論理的に考えれば、なくなるわけだから小さくなるってのが普通の考え方ですよ？」

前泊教授「そうですね。国際法上もですね、終戦とかあるいは停戦とかね、いうことがあった時にはね、そこらへんの議論がなければおかしいんですけども、この国には理屈は通用しません。在日米軍基地があるとそれは沖縄に基地がある理由もそうですね、敗戦ですよ。その次は朝鮮半島の有事に備えるための拠点になりました。その次はベトナム戦争だといって拠点になりました。その次はソ連ですね。この冷戦の拠点として位置付けられました。そのあとは中国脅威論。そして北朝鮮の脅威論。新たな脅威論がどんどん生み出されて、戦後レジームが変わらないまま、そして安保体制が変わらないままそれを見直そうという動きが国連の中にもなければ、日米の関係の中においてもそういう議論がされないのはなぜだろうという。理屈がつかないのが日米安保だと思いますね。」

【シーン2、2年前のアメリカ軍属による女性殺害事件について】

ナレ「前泊教授は1995年の少女暴行事件の時と同じ構図だと指摘する。」

前泊教授「アメリカ側がですよこの被害側が要求している補償金について値切ってきたんですよ。値切ってうまくいかないって時に日本政府が何したかっていうとその差額分を補填したんですよ。日本の税金で。今回も変わらないですよ。20年後。まったく同じようにですね20年後二十歳の子があの中に生まれた子が同じように殺されたのにその被害に対しても同じような対応しかしてない。この国って何だろうと。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

膳場「追悼式で浦添の中学生、相良倫子さんが朗読したこの詩、あのまっすぐで強い言葉がとても重く胸に届いたんですけども、ただねこの言葉って、本来だったら政治家や大人たちがもっと発してきて来なければいけないものだなとも思いましたね。」

日下部「2年前のね、女性殺害事件で、遺族に対する賠償金渋っていたアメリカもですね支払いに応じるようになったようなんですけども、不足した分をですね日本が見舞金として負担する。これ税金ですよ。すっきりしないし、違和感を感じます。」

金平「これよくよく考えてみてね。なぜアメリカ側が全額支払わないのかって、本当にあの日米地位協定とかそういうものの適用のケース外のことですからね。これね。なんで補填するような支払うような関係ができちゃったのか。まったくもって不正常だと思いますね。沖縄国際大学前泊教授から伺ったのですが、1995年の少女暴行事件の際のですね日米間のやりとり公文書があるようなんですよ。アメリカちゃんと公文書とってますからね。でその中で値切ろうとしたってアメリカ側がね。で値切った分を日本側が見舞金として負担するというのはなんともやりきれないですね。」

膳場「ところで11月の沖縄県知事選はどうなんでしょうか。あの11月18日っていう風に日時が投票日決まっているんですけども、ご覧いただいたように翁長知事の病状ですね、これがとても心配です。今のところは秋

の県知事選に再出馬するかどうか去就を明らかにしていません。8月にはですね辺野古の海に防衛局が土砂を注ぎ込むてなことを言うておりますから。それがあると辺野古の海は激変するわけで、これからの沖縄というのは目が離せない状況が続くと思います。」

翁長陣営と佐喜真陣営について取り上げられた時間自体には大差はなかったものの、翁長陣営については動向よりも翁長氏や支持者が何を狙っているのかという点に焦点が当てられていたのに対して、佐喜真陣営については動向に焦点が当てられる一方で何を狙っているのかという点には触れられていなかった。こういった場面を取り上げるのかという点では放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」に照らすとやや偏りが見られたと言える。

また、今回はイージスアショア配備問題について小野寺防衛大臣の山口県での講演したことが別のトピックで伝えられたが、山口県にも岩国市に在日米軍基地を抱えており、在日米軍基地を抱えている地域は沖縄県だけではないが、報道特集では在日米軍基地問題については沖縄が取り上げられることの多さに比べて、他の県の在日米軍基地問題が取り上げられることは検証を行っている期間においてはほとんどなかった。そうした取り上げ方は放送法第四条一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること。」という点に照らして不十分であるだけでなく、他の県にとっての在日米軍基地問題との比較なしに沖縄の特殊性が視聴者には見えてこないのではないだろうか。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】沖縄基地問題

前泊教授の前泊教授「そうですね。国際法上もですね、終戦とかあるいは停戦とかね、いうことがあった時にはね、そこらへんの議論がなければおかしいんですけども、この国には理屈は通用しません。在日米軍基地があるとそれは沖縄に基地がある理由もそうですね、敗戦ですよ。その次は朝鮮半島の有事に備えるための拠点になりました。その次はベトナム戦争だといって拠点になりました。その次はソ連ですね。この冷戦の拠点として位置付けられました。そのあとは中国脅威論。そして北朝鮮の脅威論。新たな脅威論がどんどん生み出されて、戦後レジームが変わらないまま、そして安保体制が変わらないままそれを見直そうという動きが国連の中にもなければ、日米の関係の中においてもそういう議論がされないのはなぜだろうという。理屈がつうじないのが日米安保だと思いますね。」という発言については、「戦後レジーム」という言葉が用いられていた点と、「見直そうという動きが国連の中にもなければ、日米の関係の中においてもそういう議論がされない」という点が印象に残った。「戦後レジーム」についてはその言葉を用いる人によって独自の意味が込められているように感じることもあり、どこかで概念を整理したほうが良いのではないだろうか。

スタジオでの日下部キャスターの「2年前のね、女性殺害事件で、遺族に対する賠償金渋っていたアメリカもですね支払いに応じるようになったようなんですけども、不足した分をですね日本が見舞金として負担する。これ税金ですよ。すっきりしないし、違和感を感じます。」や金平キャスターの「これよくよく考えてみてね。なぜアメリカ側が全額支払わないのかって、本当にあの日米地位協定とかそういうものの適用のケース外のことですからね。これね。なんで補填するような支払うような関係ができちゃったのか。まったくもって不正常だと思いますね。沖縄国際大学前泊教授から伺ったのですが、1995年の少女暴行事件の際のですね日米間のやりとり公文書があるようなんですよ。アメリカちゃんと公文書とってますからね。でその中で値切ろうとしたってア

アメリカ側がね。で値切った分を日本側が見舞金として負担するというのはなんともやりきれないですね。」という発言についてはアメリカが支払う賠償金についても当然それはアメリカ国民が納めた税金なのだからアメリカ側が額面に対して減額を求めたり値切ろうとするのはそれほどおかしいことではなく、重要なのは金額をめぐるそもそも日本側が当初提示したのはどのようにしていくらの金額に決まったのかであるとか、どういった交渉がなされ、どのような額で合意がされ、その上でなぜ日本側が補填するという判断をしたのか、ということであろう。そうした点を抜きにして「不足した分をですね日本が見舞金として負担する。これ税金ですよ。すっきりしないし、違和感を感じます。」「なぜアメリカ側が全額支払わないのかって、本当にあの日米地位協定とかそういうものの適用のケース外のことですからね。これね。なんで補填するような支払うような関係ができちゃったのか。まったくもって不正常だと思いますね。」とコメントされても、これでは、補填するということについても、最初から特定の結論を持っている視聴者はともかくとしてそうでない視聴者にとっては今一つ理解が進まないのではないだろうか。